

## 愛知県ワクチン接種推進本部 第6回会議 議事概要

○日時：2021年12月14日（火）午後1時から午後2時10分

○場所：愛知県本庁舎6階 正庁

○議題

- ① 3回目接種の概要について
  - ・接種体制について
  - ・職域接種について
  - ・大規模集団接種会場の開設について
- ② 小児への接種について

### 1 開会挨拶

（愛知県感染症対策局 増野技監（本部長））

当会議については、ワクチン接種が始まる前の本年1月29日に第1回の会議を開催し、その後計5回開催を重ねて、新型コロナワクチンの接種体制等について議論を進めてきたところである。

ワクチン接種については、その間、市町村における住民接種、県が設置した大規模集団接種会場での接種、企業等が実施する職域接種などにより、接種が飛躍的に進み、愛知県民の77%を超える方々が、2回接種を既に終えることができた。

これについては、医師会、病院協会、医薬品卸組合をはじめとした医療関係団体の皆様や各市町村のご尽力によるものと思っている。

さて、本日の会議の議題については、12月1日から始まった3回目接種の接種体制と、国が早ければ来年2月にも接種開始を予定している小児へのワクチン接種について、皆様からご意見をいただきたいと考えている。特に小児へのワクチン接種については、実施が決定した場合、速やかに接種を開始するため、接種体制の検討を進めるよう国から通知が出ている。

そのため、今回、小児科の専門医である、愛知県小児科医会の津村会長とあいち小児保健医療総合センターの伊藤センター長にオブザーバーとして参加いただき、小児医療の専門家の観点から、国が小児へのワクチン接種の実施を決定した場合の小児へのワクチン接種体制について、ご意見をいただきたいと考えている。

本日の会議では、皆様には、それぞれの専門的な立場からご意見をいただきました。

## 2 議題① 3回目接種の概要について

【事務局から、資料1から資料7により説明】

(愛知県医師会 浅井副会長)

資料2にある「例外的に8か月以上の接種間隔を短縮できる対象者」について、「2番目の同一保健所管内の複数の医療機関等で」とあるが、「等」の中には保育園のような施設も含まれるのか。

(事務局)

「医療機関等」の「等」とは、高齢者施設を想定しており、保育園は含まれない。

(愛知県病院協会 岩瀬常務理事)

今までのワクチン接種のことから考えると、3回目接種についても病院のほか、開業医の先生も同じように協力して実施してもらうことになると思う。

そういったときに、2回目接種完了からの接種間隔については、原則8か月ということに限定されると、ワクチンの1バイアルの中で余ってしまうこともあると思う。そのため、そういった場合は8か月に限らず、7か月半でも接種することができるようにするなど融通を利かせてもらえると、ワクチンの無駄がなくなるので御配慮いただけるとありがたい。

(事務局)

国の通知では、原則8か月を経過したものということになっているが、副反応や健康被害救済の制度の対象としては、薬事承認上、2回目接種から6か月以上の場合でも対象となっているということもある。また国から考え方が示されれば、お知らせする。

(名古屋市健康福祉局 新型コロナウイルス感染症対策部 木村部長)

知事が発言している、高齢者施設や障害者施設は、前倒しして接種開始することについては、国から方針が示されれば、県からも方針が示されるということではどうか。

### **(事務局)**

一律に高齢者、障害者の方について、2か月前倒して接種していくということは、ワクチン供給、ワクチン接種体制の確保の面からも非常に困難な状況であるという指摘が各市町村からもあがっているところである。一方で、国では、クラスター対策、オミクロン株への対応という観点から、前倒し接種について前向きに検討が進められている。県としては、高齢者の中でもクラスター対策に迅速に対応できるように入所・通所施設の利用者や、従業員を視野にいたした前倒し接種を考えていきたいという方向性を示したが、いずれにしても国で現在方針について具体的に検討されているため、国の動向を踏まえた上で、改めて県として正式な対応を示した上で、名古屋市を始め県内各市町村にもその旨連絡し、前倒し接種を行うこととなった際には、詳細を詰めていきたい。

### **(名古屋市健康福祉局 新型コロナウイルス感染症対策部 木村部長)**

大規模接種会場については、1月から始まることを市の広報媒体に掲載しようと思う。予約コールセンターや予約方法が決まったら、早めに知らせしてほしい。

### **(新城市 広瀬副市長)**

3回目接種の関係で、資料3に、ファイザー社とモデルナ社のワクチンが供給されると記載がある。このため、個別接種を行っていただく医師会の医師の方に、モデルナ社のワクチンを取扱ってもらうように話をしている。新城市においては、1、2回目接種では、個別接種が50%、集団接種が50%とだいたい同じくらいであった。開業医の医師や、そのかかりつけの患者さんの間では、個別接種を行う際に、ファイザー社のワクチンで接種したいという声が圧倒的に多い。実際にどれくらいの割合で、ファイザー社とモデルナ社のワクチンが供給されるのかということを出来るだけ早く教えて欲しい。市が、医師に対してワクチンのメーカーごとの供給状況等について、速やかに情報提供が出来るよう、県にはご助力をお願いしたい。

### **(事務局)**

ご指摘があったように、国では、1回目、2回目にファイザー社のワクチンを接種した全ての方が、3回目接種でもファイザー社のワクチンを接種するという前提での供給体制ではなく、ファイザー社のワクチンが足りない部分については、モデルナ社のワクチンに巻き替えて供給される予定というのが現状である。今後、ファイザー社のワクチン供給量が増えるという可能性もあるが、当面2月までに供給されるワクチン量は、資料3のとおりとなっている。各市町村に、モデルナ社のワクチンを供給して、クリニック、病院に接種をお願いしなければな

らない状況である。このためご指摘いただいたとおり、速やかに各市町村への配分について情報提供するとともに、その都度、ご意見ご要望を伺いながら対応していきたい。

**（愛知県病院協会 岩瀬常務理事）**

新型コロナワクチンの接種状況を年代別に見ると、20代、30代、40代が少なく感じる。それに対して何か対策をしているか。

**（事務局）**

まず、資料1の2枚目に掲載されているデータは、VRSに登録された一般接種のファイザー、モデルナ、アストラゼネカの合計となっており、医療従事者の接種者や、VRSの登録を終えていない一部の職域接種を実施した企業の方については、表の接種率に含まれていない。VRS未登録者の接種回数については、表の欄外に記載しているが、VRS未登録で1回目、2回目接種を終えられている方の割合は、12歳以上人口比で、それぞれ1回目が8.32%、2回目が7.59%となり、実際には、これらの接種率を上乗せした数値となる。

その上で、やはり高齢者と比べると接種率が抑えられている状況であるため、県としては、若年層が接種しやすい環境を整備するため、名古屋市栄に大規模接種会場である「あいちワクチンステーション栄」をオープンしたほか、藤田医科大学や、知事自らが出演して、接種の呼びかけを行うPR動画を作成した。また、愛知県独自の取組として、20代、30代の若年層に対して、インセンティブとして10,000円分の食事券を抽選で2万名にプレゼントする「あいち若者ワクチン接種促進キャンペーン」を実施することで接種率の底上げを行った。

### **3 議題② 小児への接種について**

**【事務局から、資料8により説明】**

**（愛知県小児科医会 津村会長）**

小児へのワクチン接種については、いろいろな意見があり、これについては、これから国が実施について議論を進めていくことだと思うが、実施することとなった際の接種体制としては、個別接種、集団接種、施設を訪問して接種することが考えられる。小児科では、日本脳炎やジフテリアなどの定期予防接種を多く打っているが、新型コロナワクチンの接種も、普段、定期予防接種を打っている医療機関、あるいは医師に打ってもらうことを基本とするのが重要と考える。

集団接種については、新型コロナウイルスに罹患した小児が増えるなど、緊急に多くの人に接種しなければならない状況であれば必要となってくる。そう

いった状況を念頭に置いて、接種体制の整備を行う必要があると考える。

また、クリニックの医師の立場では、定期予防接種は、「定期予防接種実施要領」に則り実施しており、接種にあたっては、接種医療機関及び接種施設において、問診、検温、聴診等を接種前に行い、予防接種不適合者及び予防接種要注意者に該当するか否かを調べる予診を行った上で、接種を行っている。

これまでの成人の集団接種では、問診を行った後に接種をしていたが、5歳以上11歳以下の小児の接種にあたっては、定期予防接種と同様にしっかりと予診を行って、接種が可能であるかを判断することが必要ではないか。

それを考えると、一度に接種できる人数がこれまでの大人と比べると少なくなることが予想され、さらに、保護者と本人の両方に説明して同意を得るということも必要となる。また、同意を得た場合であっても、小児が直前になって嫌がる可能性もあり、その際に、保護者などが説得するスペースと時間が必要となるので手間がかかる。これは、クリニックでも集団接種でも同じである。またワクチン接種を介助する看護師等も2人必要となることも想定する必要がある。

また、母子健康手帳で定期予防接種の管理をしている。今の段階では新型コロナワクチンの接種について、必ず母子健康手帳に、接種記録を記載するということが国から指示されていない。定期予防接種との接種間隔の確認や、将来、新型コロナワクチンを接種したことを振り返ることができるという意味でも、母子健康手帳に接種記録を明記すべきではないかと考える。

また、国の事業として、平成22年から子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業が実施されたが、子宮頸がんワクチンも同じ筋肉注射であるが、新型コロナワクチンの方が、接種部位の痛みの問題のほか、アナフィラキシーの発生率が高いため、より慎重に予診等を行い接種する必要がある。

接種費用についても、この子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業で示された基準単価に準じた額を国に要望をしていく必要があるほか、可能な限り実施主体の市町村が補助することで、5歳以上11歳以下の小児への接種を実施する医療機関も増えていくのではないかと考える。

加えて、1バイアル10人となるとワクチンロスが出る。小児への接種ということを念頭に、柔軟に進めていただきたい。

#### **（あいち小児保健医療総合センター 伊藤センター長）**

5歳以上11歳以下の小児への接種については、日本の小児科医の中でも、積極的に推進すべきという意見と、慎重に行うべきだという意見がある。感染症の専門家の中では、社会的な感染の抑制という観点から積極的に推進したいと考えているようだ。ただ、このあたりの議論については、国、あるいは小児科学会全体としても意見がまとまっていないことであるため、小児科学会などの方針

が示されるのを待ちたいと思う。もし、接種していくということになれば、あいち小児保健医療総合センターとしては、最大限協力していきたい。

どのような接種体制にしていけばよいかということについてであるが、それぞれのお子さんのことをよく把握している、かかりつけ医を基本とし、特に様々な基礎疾患を持っているお子さんについては、その疾患を診ている主治医のもとで、接種できることが望ましいと考えている。そういったお子さんについては、市町村の枠を超えてでも、主治医のもとで接種ができる体制であるとよいのではないか。それ以外の健常児については、早いスピード感で接種することも可能と考えられるため、個別接種のほか、集団接種も必要となる。集団接種を行う上で、5歳から7歳くらいまでのお子さんは、ワクチンについて理解して接種するかどうかを判断することは難しく、保護者が積極的に打ちたいと考えている場合、その判断に従うしかない。お子さんが拒否するには泣くしかないため、結果的に泣きながら、暴れながら接種するという場面は避けられない。一方で、比較的年齢が高いお子さんについては、注射を打つということそのものについては整然と行うことができ、そういった場面が入り混じった会場となることが予想される。会場全体に、泣いたり暴れたりするお子さんの影響を少なくできるような体制にする必要がある。

仮に当センターで集団接種を行うとしたら、例えば、接種ブースを3列作り、少し時間がかかるお子さん向けの接種ブースを1つ、年齢が高く整然と接種することができるお子さん向けの接種ブースを2つ作る。時間がかかるお子さんのブースでは、1時間あたり10人、年齢が高く整然と接種できるブースでは1時間あたり20人と考え、1時間あたり50人が、現場としては精一杯ではないかと予想している。接種する場所では、接種する人は1人でよいと思うが、介助する人が1人でよいかは不安に思っており、場合によっては、2人以上の介助者が必要な場面が出てくると思う。問診場所については、もし診察をともなうということであれば、医師1人ではなく、看護師が立ち会う必要がある。

また、アレルギーを持っているお子さんは成人に比べても多く、30分経過観察を行うスペースも、接種する人数に比べて広くとる必要がある。お子さんに接種する場合は、保護者や兄弟が同行しているので、そういった方々も想定して、余裕のあるスペースを確保する必要がある。実際に、接種にともなうアナフィラキシーを始めとした副反応の症状が、成人に比べて多いという報告は、諸外国の資料を見ても出ていないが、アレルギーを強く持っているお子さんは多くいるので、アナフィラキシーに対応できる準備をし、接種会場を作ることが重要である。

5歳以上11歳以下の集団接種会場を作る際には、これまでの12歳以上の方への接種会場よりも人手を多くし、スピード感としては少し遅くなるということ

を想定した方がよい。

#### (事務局)

大変貴重なご意見をいただいた。これから市町村でも接種体制を整備していくことになるため、こういった現場の声も国からの情報と併せて、市町村へ積極的にフィードバックをしていければと思う。

#### (名鉄病院予防接種センター 菊池センター長)

もし名鉄病院で、5歳以上11歳以下の小児に対して接種を行っていくとしたときに、厚生労働省の指示通りにやるとおそらく、1人当たり5分から10分くらいはかかるのではないかと予想している。

接種する人に加え、介助者も2人は必要なのではないかと考えており、従来の12歳以上への接種体制と比べて、3分の1くらいの接種効率となるのではないかと予想している。従来の定期予防接種と同じように進めていくと、ほとんど進まないのではないかと思う。そのため、効率のよい人数配分で、速やかに接種することができる病院を中心に集団接種を行い、それができないようなアレルギーや疾患を持っているお子さんについては、個別で打つような体制がよいのではないかと考える。

また、小児用のワクチンと12歳以上用のワクチンでは、希釈や接種容量が異なり、単純に大人用バイアルの3分の1を接種すればよいというようなものではない。

小児用のワクチンと12歳以上用のワクチンが混在するような場所だと、小児に接種する日と12歳以上に接種する日というように、日ごとで分ける必要があるのではないか。そういった体制とした場合、さらに接種効率が落ちる可能性も考えられ、体制を整備することが煩雑で、小児への接種を躊躇するような医療機関が出てくるということもあり得るのではないか。

こうしたことから、新型コロナワクチンの接種に際して様々な補助金があると思うが、小児への接種は、12歳以上への接種よりも手間がかかるということから、小児への接種を実施していくこととなった場合には、12歳以上への接種よりも手厚い補助が、必要となってくるのではないか。

#### (瀬戸保健所 澁谷所長)

保健所の立場としては、国の方針として小児への接種が実施されることとなった場合には、啓発活動をさらに進めて欲しい。国立成育医療研究センターが、9月の第5波の際に、お子さんとその保護者を対象に実施したアンケート調査によると、高校生では約2割が接種したくない、中学生では約3割が接種したく

ない、小学生では約 4 割が接種したくないという回答であり、年齢が下がるにつれて、接種したくないと回答する方の割合が、多くなっているという傾向がある。それは、先ほどお話があった 20 代、30 代、40 代の親世代の接種率の傾向と、連動しているのではないかと考える。

お子さんとしても、身近な存在からすすめられれば、接種するというのもあるのではないかと。また、親子で予防接種について考えることは、お子さんが、予防接種に対する考え方を学ぶきっかけにもなるという観点からも、もし接種が実施されることとなった場合には、20 代、30 代、40 代の親世代も含めて、全体への啓発も引き続き実施していく必要があると考える。

例えば、教育委員会と協力していくことや、町ぐるみで考えていくことも必要だと考える。

また、難病の子どもについては、専門の主治医の先生がいるが、そういった医師は大きな病院にいることも多く、患者の近くにはいないこともある。難病の子どもの接種が取り残されないように、専門的な主治医の方にも協力してもらえらるような体制を整備する必要がある。

#### **（愛知県医師会 浅井副会長）**

現状、小児科の医師は集団接種で協力していても、自院では、VRS システムや V-SYS の登録や登録用の端末の整備をしていないので、小児への接種が決まり、2022 年 2 月にも開始されるということになれば、登録端末の配備や初期設定を混乱がないように進めていく必要がある。

#### **（あいち小児保健医療総合センター 伊藤センター長）**

菊池先生のお話との関係で齟齬がないように少し補足をさせていただくと、あいち小児保健医療総合センターで想定する集団接種体制については、予診、診察を行うブースは接種するブースとは別にあり、接種ブースは接種のみを行うという想定でお話をさせていただいた。菊池先生のイメージは、問診、予診と接種が 1 つのブースの場合を想定しているということだと思う。

#### **（名鉄病院予防接種センター 菊池センター長）**

ご指摘のとおりで、クリニックで接種する場合に、予診と接種を 1 つの部屋で行い、単純に大人との比較ということでお話しをした。

#### **（愛知県小児科医会 津村会長）**

接種医が、安心して接種できるような体制としていくには、急性の副反応については、近隣の二次病院が対応できるような体制、後日起きるような副反応につ

いては、時間外の場合は愛知県救急医療情報センターも活用していくというような体制を整備していくのがよいのではないか。

また、今回小児への接種にあたり、接種の翌日以降、学校生活をどうしていくのかというようなことも学校関係者や教育委員会とも連携し、接種医が説明を求められた際に、どう対応していくのかということも方針があるとよい。

**(幸田町健康福祉部 林部長)**

今回、貴重なご意見をたくさんいただいた。集団接種、個別接種に関わらず、適切に接種体制を整えていきたい。

**(愛知県医薬品卸協同組合 中北理事長)**

先日、当組合の理事会で、ワクチン接種体制の整備に協力していこうということで話し合われたところである。県内に10か所の配送センターがあるので、そこにワクチンを納品し、医師等を配置することができるのであれば、ワクチンの輸送がセンター内で行えるので、なるべく接種会場として手を挙げていきたい。1回目、2回目で接種会場として使用した場所では、次の接種会場にいつでも手を挙げるようなセンターもあるので、当組合として出来る限りの協力をしていければと思う。

**(事務局)**

副反応等に対する相談体制については、1回目、2回目の接種の際に、国からの指示のもと、地域の実情に合わせて整備していくということで相談体制を構築した。今後、小児への接種が実施されることとなった場合、接種体制を整備する中で、お子さんに生じた副反応への相談体制も整備していく必要がある。そこで、愛知県の小児医療の中核を担う、あいち小児保健医療総合センターにも協力をいただけると大変心強い。

**(あいち小児保健医療総合センター 伊藤センター長)**

当センターは、小児の専門医療機関であり、全国のいろんな情報も迅速に入ってくる。まずは、各医療機関で対応していただいた上で、医師が判断に迷うようなことがあれば、専門的な相談にのることができる。また、症状が重ければ、当センターは救急搬送体制も整備されているので、重篤な症状の患者を引き受けることもできる。

#### 4 閉会挨拶

**(愛知県感染症対策局 増野技監 (本部長))**

これから3回目の接種が本格化してくる。また、小児への接種は、国の方針がまだ定まっていない状況ではあるが、国が小児接種の実施を決定した場合には、速やかに接種体制を整備できるよう準備を進めるなど、皆さまにいただいたご意見を参考に、円滑なワクチン接種に取り組んでいきたい。

以 上